

# 「信州・学び創造ラボ」の空間デザイン 「これからの図書館」の空間のあり方と作り方を提案

長野県 県立長野図書館

## 基本データ

所在地	長野県長野市 若里 1-1-4
職員数	35 人
うち司書数	23 人
蔵書数	約 710,000 冊
利用登録者数	約 90,000 人
年間貸出冊数	約 100,000 冊 (児童用図書貸出数 約 57,000 冊)

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】複合化、空間づくり

【活動のねらい】

- 「これからの図書館」における空間を切り口として、そこでの情報のあり方、情報と人の出会い方、人と人の出会い方(多様な学びのコミュニティの形成)などを試行する。
- その成果を様々なモデルとして市町村立図書館・学校図書館等へ提案し、地域における情報拠点としてのこれからの図書館の姿を共に探っていくこと。

## 取組・活動の概要

- 平成 31 年 4 月 6 日、当館 3 階に「信州・学び創造ラボ」がオープンした。
- 当館は平成 27 年から 5 か年にわたって、県立図書館及び市町村図書館のこれからの図書館像を探り実現するための事業改革を行ってきた。このラボは、これからの図書館における「情報・空間・人」のうち、空間のあり方へのひとつの提案として、多様な人々との対話を通じてデザインされた場である。



オープニングイベントにおける本棚をつくるワークショップには知事も参加

- 「共知・共創(共に知り、共に創る)」をコンセプトとしたラボは、それまであった会議室や閲覧室をリノベーションし、約 900 m<sup>2</sup>のフロアの中に、アウトプットやインプットを促す様々なタッチポイントを埋め込んだデザインになっている。



信州・学び創造ラボ。図書館全体で FreeWi-Fi、電源利用可能。

- 信州・学び創造ラボの主な構成要素は、ラーニングcommons、メイカーズスペース、信州情報探索コーナー。

【ラーニングcommons】

- 対話し、多様な価値観に触れることで新たな社会的価値・活動を生み出していく場。マイクロライブラリー、グループワークスペース、壁面ホワイトボード、ミニキッチンが設置されている。



ラボでは、ワークショップやミーティングなど、誰かと一緒に「知る」活動があちこちで展開されている

## 【メイカースペース】

- 試行錯誤しながらのアウトプットがより深い学びとしてのインプットを促すしかけ。3Dプリンタ、レーザーカッター、UVプリンタ、スキャナ、カッティングマシン等が設置されている。



ものづくりができるデジタル機器を揃えたメイカースペースでは、実際にアウトプットしながら「知る」体験ができる

## 【信州情報探索コーナー】

- 紙とデジタルの融合、信州における110年分の知の営みを概観し、自らその情報資産を活かした創造活動のきっかけ。

## 取組・活動の工夫や特徴

- 「カフェ」「賑わい創出」「サードプレイス」といった言葉やイメージからのメニュー選びではなく、「どのような知的な創造の体験をしたいか」＝「体験のデザイン」を大切にしながら皆で議論を重ねた。
- こうした皆で議論をする営みは、企画設計・整備段階だけでなく、運用が始まって以降も定期的に継続して開催している。



「体験のデザイン」を重視しながらラボの空間デザインや運営のあり方を考えていった整備段階でのアンカレンス

## 取組・活動の成果や今後の展望

- そうしたプロセスへの評価や、その向かう先にある図書館のありように対する期待として、令和元年11月に、Library of the Year 2019の優秀賞を受賞。「知の公共性をひたむきに志向した、共創の舞台となる情報拠点」との評価をいただいた。
- 「信州・学び創造ラボ」がオープンして以降、「新しい学びの姿」が予期した以上に繰り広げられるようになった。
- 今後はそうした活動をさらに起こりやすくするきっかけを如何に埋め込むか、また「自立した学びのコミュニティ」をどうやって増やすかを課題として取組み、最終的には、「学びの自治」の場としての図書館像を実現していきたい。



信州・学び創造ラボ全体図

- なお、この空間のデザインに向けて紡がれたコンセプトや言葉は、これからの県立図書館や地域における公共図書館の果たすべき役割として『長野県新総合5か年計画：しあわせ信州創造プラン2.0』や『第3次長野県教育振興基本計画』（いずれも平成30年～）に反映されている。

参考：県立長野図書館 Web サイト

<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/index.html>